

インターバンクの声（2016 年 6 月 6 日）

先週末3日に発表された5月の米雇用統計は、16万人前後と予想された非農業部門雇用者数の増加(前月比)が3万8千人と、2010年9月以来の低い伸びとなる衝撃の結果となった。3万8千人は誤配信で、13万8千人が正しい数字ではないかと思った人もいたに違いない。この就業者数増の数字では、失業率の改善に注目するどころではない。これで6月14－15日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げの可能性はほとんど無くなっただろう。今日の講演でも、イエレン議長は雇用統計の結果に沿った内容の発言になる公算が高い。ただ、雇用統計の結果だけで全てが決まるわけではなく、今後、その他の経済統計や今回の雇用統計の結果が上方修正される可能性に若干注意が必要だろう。問題は6月だけではなく、7月の利上げの可能性まで消えてしまうかどうかだ。ドル円は106円台中盤まで円買い・ドル売りが進んできたが、110円前後でしばらく凌ぎたいと目論んでいた政府・日銀にとっては完全に想定外の展開だろう。105円が急激な円高への防衛ラインとの声もあり、金融当局の出方も気になるところだ。

提供:SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。